

# 須磨シニアコミュニティ

## 令和3年度事業計画

### <施設理念>

『目と手に心をそえて』を基本に  
私達は、  
生きがいある生活と（利用者様）  
やりがいのある仕事（職員）  
思いやりのある人づくり（法人）  
社会づくりをめざします（社会）

### <基本方針>

理念に基づき、ユニットケア、自立ケア、防災の3つを重点項目として研修や実践を展開します。

### <従業員数>

正職員	64名	(男21名 女43名)	
P職員	23名	(男6名 女17名)	合計87名

## ●施設

今期のテーマ 『収益力向上と人材育成』

今期計画

- 1、経営基盤の安定
- 2、人材確保と人材育成
- 3、労働環境への整備と管理
- 4、管理体制の強化

## 1、経営基盤の安定

### ① 営業の強化

収益力向上の為、昨年に続き稼働率を上げるために、利用者様が長期入院とならないよう看護師・介護職は日頃のバイタルチェックなど巡回時の状況確認を十分に行い、ADLが低下しないように対応していく。

稼働率目標 特養 95.0% ショートステイ 103% デイ 72% 居宅 100% を必達する。

- ② 昨年より相談員2名体制としており営業面の強化をより一層図ると共に、入所判定会議において入所者の状況を掴み、介護度や負担割合などにも留意し入所して頂く。
- ③ 職員確保が前年で完了している。今後、適正人員配置と正職員・有期職員等のバランスを図り人件費の削減につなげる。また人材確保に伴う紹介会社への手数料が収益圧迫の要因となっていることから職員よりの紹介やハローワークなどよりの採用に努め収益確保につなげる。
- ④ 新型コロナ感染や災害が発生した場合でも、利用者に必要なサービスが提供される体制を構築するためBCPを作成し、研修や訓練（シュミレーション）の実施をする。

## 2、人材確保と人材育成

- ① 人材の安定については、やめない環境を作る事が重要。やめる原因となる要因を職員より聴取し早期対処することで働きやすい環境整備を図る。
- ② 教育推進委員会の活動を活発化させ、階層別の教育をすることで職員自身の置かれている立場を理解し成長につなげる。積極的にZOOMなどの外部研修に参加させるとともに、専門性のある研修を受講させスキルアップを図る。
- ③ 身体拘束廃止・高齢者虐待防止にむけた研修による指導を引き続き行き最低限の事柄についても理解と認識を高めさせる。
- ④ EPA介護福祉士候補者等の計画に基づく研修及び他施設との合同研修の実施。
- ⑤ 神戸市高齢者介護士認定試験および合格者に対するキャリアアップ支援金活用し介護福祉士資格取得を推奨する。

## 3、労働環境への整備と管理

- ① 部署毎に効率化を検討させるとともに、適正人員による運営を図っていく。  
また、不足部署については人員採用により早期適正化を図る。
- ② 業務内容における問題の洗出しを行い負担となっている事項に対し改善を図る。  
また介護技術の研修をリーダー会議などで行い職員全員の意識改革をはかる。
- ③ 多職種間の問題への対処を行い、ストレスのない職場環境への改善を図る。またメンタルヘルスチェックを実施し、産業医の指導をタイムリーに行う。

- ④ 引き続き、全職員が年 5 日の年次有給休暇の取得できるよう管理することや、同一労働同一賃金への検討見直しを図る
- ⑤ カスタマーハラスメントへ防止のための方針を明確化する

#### 4、管理体制の強化

- ① 引き続き各種委員会の活動を見直し、職員間の統一化を図る

##### <事故発生防止委員会>

重大事故発生時に検証を行い再発防止に努める。また、毎月の KYT 活動を通してリスクマネジメント力を向上させ事故軽減に繋げる

##### <虐待防止、身体拘束廃止委員会>

定期的な職員研修の実施及びチェック体制の整備

□不適切ケアを防ぐ職員間の意識の向上

3 ヶ月毎の身体拘束廃止委員会の実施

##### <防災対策委員会>

福祉避難所や BCP を想定した訓練を行う。

##### <衛生委員会>

職員の腰痛予防対策、5S チェック体制の継続を図る。

##### <感染対策、褥瘡予防委員会>

研修の実施により、介護職の知識の向上、早期発見に努める

##### <行事委員会>

施設職員全員で行事に取り組む

行事担当及び委員会以外の職員（専門職含む）の参加

##### <教育推進委員会、介護サービス向上委員会>

階層別研修会の実施、介護技術・知識の指導、ZOOM 活用した研修取組

##### <苦情処理委員会>

早期対応し苦情解決に努める

また苦情が発生した場合の対応策等を職員間で認識し、今後の対応に努める

### ●特別養護老人ホーム

特養入所定員 60 名

介護正職員数 30 名

介護 P 職員数 3 名 派遣 1 名

看護師職員数 4 名

## <特養生活相談員>

今期のテーマ「選ばれる施設を目指す」

- 今期計画 1、実質稼働率 95.0%の達成  
2、利用者、家族ニーズの把握

### 1、実質稼働率 95.0%の達成

(人員の安定)

- ①入所希望者の中から、基本ご家族との関係性をみる為にも、ショートステイを経て特養とするが、急な退所があるので、即入所出来る為に待機者を増やす。
- ②早めの退院調整を行う。
- ③病院、老健、グループホームへの紹介依頼を行う。

### 2、利用者、家族ニーズの把握

- ①日頃よりコミュニケーションを図り、要望、ニーズを捉える。
- ②日頃から利用者の状態を伝えていく。
- ③コロナ禍の中で面会が十分に出来ない中で動画などのネット面会も併用し今後のニーズに対応していく。

## <特養介護職員>

今期のテーマ 「基本的なケアの見直しを図り QOL の向上に繋げる」

- 今期計画 1、人材育成に努める  
2、辞めない職場環境作り  
3、サービスの質の向上  
4、稼働率の向上に努める  
5、各ユニットの目標

### 1、人材育成に努める

- ①ユニットリーダー資質評価表を用いたリーダーのレベルアップ及びリーダー候補者の育成に努める
- ②リモートを活用しての外部研修の参加。
- ③EPA 介護福祉士候補者の計画に基づく研修と助言、指導の実施。
- ④ユニットリーダーによる介護マニュアルを使用した新人研修の実施。

⑤RR-1 グランプリに向けて各ユニットでの事例作成に取り組む。

## 2、辞めない職場環境作り

- ①年5回の有給休暇の取得。
- ②介護士会へ参加し他施設の情報を共有する。
- ③超過勤務削減に努める。
- ④リーダー会議、ユニット会議の在り方の見直しを図り問題の早期解決に繋げる

## 3、サービスの質の向上

- ①高齢者虐待防止身体拘束廃止委員会主催により勉強会への参加、チェックリストを実施することで不適切ケアの削減に努める。
- ②定期的な人事異動の実施。
- ③報告・連絡・相談の徹底。
- ④業務改善、見直しの実施。

## 4、稼働率の向上に努める

- ①感染対策委員会、事故防止対策委員会主催による勉強会への参加、危険予知活動、感染予防対策を継続して実施し入院者の減少に努める。
- ②コロナ感染対策の継続と徹底。
- ③歯科往診記録及び口腔機能維持管理に関わる助言をユニット内で共有し誤嚥性肺炎による入院者を抑える。

## 5、各ユニットの目標

- ・舞子
  - ①協力し合える雰囲気作りと働きやすい環境を目指す。
  - ②職員間、多職種との情報共有を行い、サービスの質の向上、介護事故の減少に努める。
  - ③挨拶や言葉使い等接遇を心がけ、不適切ケア及び虐待を防ぐ。
- ・須磨ノ浦
  - ①ユニット職員間や他職種の方と連携を図り、フロア単位での協力体制づくりを目指します。
  - ②EPA 候補生との関わりを通じて、日本語の理解を深め、共に成長できるようにします。
  - ③施設理念に基づき、思いやりのある介護を行い、不適切ケアにつながらないようにします。
- ・淡路
  - ①コロナ禍でも、入居者様に安心して快適に生活していただけるよう努めます。
  - ②職員が意見を出し合い、他職種と連携ができ、風通しのよい職場環境づくりを目指します。
  - ③接遇面を強化し、言葉づかいに気をつけます。
- ・一の谷
  - ①ユニット職員、多職種職員との情報共有・連携をとることでサービスの向上に努める。

- ② 5S チェックやマニュアルに基づいて、環境整備・衛生管理・感染予防に努める。
- ③ 言葉使いを中心に、職員の接遇をみなおし、不適切ケアや虐待につながらないように、ユニット内での向上に努める。
- ・ 離宮
  - ① 職員同士で注意し合える職場作りを目指し、介護事故、不適切ケアの減少に努めます。
  - ② 入居者担当の役割を通して一人ひとりが責任と考える力を養えるようにします。
  - ③ ユニット内での整理整頓、報告、連絡、相談を徹底しサービスの向上を目指します。
- ・ 村雨
  - ① 入居者様との関わりを大切にし、暮らしやすい環境を提供出来るように職員の技術向上、専門知識向上に努めます。
  - ② 入居者様が心身ともに良い生活が送れるように小さな変化にも気付けるように努めます。変わったことがあれば他職種と連携し、対応していきます。
  - ③ コロナウイルス等感染症対策を行い、安心して過ごしていただける為の環境作りに努めます。

## <介護支援専門員>

今期のテーマ 利用者や家族が持っている「生活の力や介護の力」を把握する

- 今期計画 1、支援経過記録の作成  
2、状態変化時、退院時の対応

- 1、モニタリング、再アセスメントを行い、抽出した課題と利用者家族の意向、多職種の情報に基づきケアマネジャーとしての判断を記載する。またプラン作成をする。外部研修への参加も行い、施設ケアマネジメントについての理解に努める。
- 2、状態の変化や新たな課題発生時
  - ・ 再アセスメントやケアカンファレンスの開催をし、多職種と情報共有、意見交換、課題の抽出、支援方針を決める。
  - ・ 退院時は生活相談員と連携し、地域医療連携室や病棟看護師から利用者の情報収集に努め、課題抽出、支援方針を決める。
  - ・ 支援経過記録に状況を記載する。

- ・必要時はプランを修正し、新たな原案を作成する。
- ・サービス担当者会議の開催。

## <看護職員>

今期のテーマ「利用者の健康状態を把握し、異常の早期発見に努め長期入院を予防する」

- 今期計画 1、嘱託医師等と連携強化を図る  
2 看護の質の向上を図る

### 1、嘱託医師等連携強化を図る

- ①利用者の異常の早期発見に努め、適切に対応する。
- ②家族との信頼関係を構築し、情報提供できる。

### 2、看護の質の向上を図る

- ①看護師の定着化を図り、協働する。
- ②きめ細やかな情報収集を行い介護職員と共有する。
- ③看護処置を統一して介護職員と早期治癒を目指す。
- ④看護業務の効率化を図る。

## <管理栄養士>

今期のテーマ「適正な栄養や食事形態での安心安全な食事の提供」

- 今期計画 1、低栄養状態の高い入居者に関わらず、早期に問題を把握し対応する  
2、非常食マニュアルの見直しを図る

### 1、低栄養状態の高い入居者に関わらず、早期に問題を把握し対応する

- ①多職種と情報共有し、食事支援を積極的に行う。
- ②ミールラウンドを通じ、食事摂取状況等を把握する。
- ③栄養補助食品等の新しい情報を積極的に取り入れる。

### 2、非常食マニュアルの見直しを図る

- ①災害時だけでなく、食中毒事故や感染症の発生時にも対応できるマニュアルを作成する。
- ②全職員が見て動けるマニュアル作りに努める。
- ③非常食の内容等を必要に応じて見直し検討をする。

## ●ショートステイ

SS 入所定員 20 名  
介護正職員数 6 名  
介護 P 職員数 3 名  
看護師職員数 1 名

### <ショートステイ生活相談員>

今期のテーマ 「ショートステイの活性化」

- 今期計画
- 1.事業所との連携・情報交換の活用
  - 2.稼働率の安定 103%達成
  - 3.安心、安全な場所の提供、ご自宅と変わらない環境整備
  - 4.リピーターを増やす事でショートステイの活性化を図る。

#### 1、事業所との連携・情報交換の活用

- ①サービス担当者会議への出席
- ②緊急的な利用の対応
- ③特養へ繋がる利用の推奨、相談

#### 2、稼働率の安定最低 103%を維持する。

- ①ショートステイのリピーターの確保、安定化を図る。
- ②空床情報の定期的な発信と空きベッドの活用
- ③相談員二人体制により、北須磨地区への新規開拓と現区域の営業促進

#### 3、安心、安全な場所の提供、ご自宅と変わらない環境整備

- ①事故をおこさない環境作り
- ②馴染みの出来る関係作りに支援する。
- ③余暇活動の検討

#### 4、ショートステイユニットの目標



- ①ケアマネジャーとの連携、家族への報告(連絡帳にコメントを記入)
- ②居室環境の整備と行事、余暇活動の提供、個別介護計画書に沿った記録の充実とケアの検討会の実施
- ③荷物の忘れ物のチェック、着衣を含めた整容の管理に努める。
- ④業務改善(超過勤務の削減)、整理整頓、有給休暇の取得
- ⑤送迎時、安全運転に努める。
- ⑥コストダウンを考えた使用電源等の工夫と業務の遂行
- ⑦感染症に対応できる衛生面の管理
- ⑧レク活動（食事レク等）を季節事（春・夏・秋・冬）に開催出来るように努める。
- ⑨ユニット間の連携を図る為に、月1回2ユニット合同会議の開催に努める。

## ●デイサービスセンター

利用定員数	30名
介護正職員数	10名(内P職員4名 派遣 0名)
看護師職員数	2名(内P職員0名 派遣 1名)

今期のテーマ 『シンクロ』

今期計画 実質稼働率 72%の達成

- 1、魅力あるデイへの転換
- 2、平均稼働率の向上と収益性向上
- 3、業務内容・任務分担の改善
- 4、季節行事・外出行事の企画

### 1、魅力あるデイへの転換

- ① 従来よりのサービス内容・レクなど良い部分を残しつつ、他の施設での経験や機能改善に結びつく様な新しいレク・メニューを積極的に取り入れることにより魅力あるデイと感じていただける様改革してまいります。
- ② お帰り頂く際は皆さんが笑顔で帰って頂けるようにしていきます。
- ③ 職員1人1人が満足の味わえる職場としていきます。

### 2、平均稼働率の向上と収益性向上

- ① 当デイサービスの魅力を、従来どおり直接訪問による居宅ケアマネージャー様への営業活動によりアピールし、連携を図りながら新規稼働率の向上に努めていきます。

- ② 曜日により稼働率がまちまちである事より平準化を図るためにも少ない曜日に来てもらえる交渉や利用者発掘を継続いたします。
- ③ また、介護度の高い方の利用についても認知症介護への取り組み等により平均介護度を意識した活動により収益性向上を図ります。

### 3、業務内容の改善・任務分担の改善

- ① デイ会議・レク会議には経営や居宅担当者も参加することで、現在の状況把握・課題を共通認識として捉え皆で取り組んでいきます。
- ② 風呂の介助の他時間配分など状況により内容の見直しを図る。また、機能改善に向けた体操やレクなどをこまめに入れていく事でマンネリとならないような業務内容の変更をする。
- ③ 余剰人員をレク担当や記録係りにするなど中身のある活動につなげます。記録を時間内にすることによる時間外勤務の削減につなげます
- ④ 利用者増加に伴いデイ職員の増員もしてまいります。任務分担を確りと計画していくことで職員間の連携を向上させ利用者様へのサービスへつなげてまいります。

### 4、季節行事・外出行事の企画

- ① 商業施設ナナファームへのお買い物ツアーの他、食レクなど魅力ある行事を企画してまいります。

## ●須磨シニアケアプランセンター

介護支援専門員数 2名(内P職員1名)

今期のテーマ 「相談しやすい、信頼できる居宅を目指す」

- 今期計画
- 1、介護支援専門員の資質の向上を図る
  - 2、事業所内職員間の情報交換
  - 3、地域とのつながりを深める

#### 1、介護支援専門員の資質の向上を図る

- ①毎月の居宅会議開催
- ②毎月の法人内合同（板宿地域包括支援センター、東須磨居宅、須磨シニア居宅）会議参加
- ③事業所内外の研修に参加し連携を深め、ケアマネジメントに活かす

- ③令和3年度介護支援専門員更新研修受講
- ④令和3年度主任介護支援専門員更新研修受講

## 2、事業所の職員間の情報交換

- ①毎月の居宅会議実施で活性化に繋げる
- ②課題の共有、相談がスムーズに行う事が出来る
- ③チームとして働く快適な職場作り、報告、連絡、相談の体制づくりなどを含めた、担当者不在時のフォロー体制づくり

## 3、地域とのつながりを深める

- ①地域ケア会議や、各地域包括支援センターが主催する会議等に積極的に参加し、顔の見える関係づくり
- ②地域の課題解決に向けて、民生委員の方々や地域包括支援センターと連携して取り組む
- ③利用者の暮らしを理解し、その人らしい自立した生活ができるように支援する
- ④一人暮らしや認知症の高齢者、中重度の要介護の方が地域で安心して暮らせるよう地域資源や医療と連携し、チームケアが行なえるように支援する
- ⑤医療機関や地域包括支援センター等と連携を円滑にして、安心して任せて頂ける事業所づくり
- ⑥医療機関や地域包括支援センター、介護サービス事業所から信頼を得ることで、新規利用者に繋げていく
- ⑥居宅が窓口となり当法人のデイサービスやショートステイなどの利用につなげていく

## ●東須磨ケアプランセンター

介護支援専門員数4名（男1名 女3名 内P職員1名）

今期のテーマ 「地域の方の身近な相談窓口を目指す」

- 今期計画
- 1. 自立支援の理念に添ったケアマネジメントの実施
  - 2. 介護支援専門員の資質の向上を図る
  - 3. 支援困難ケースの積極的な対応等地域における居宅介護支援事業所としてケアマネジメントの質の向上を図る

- 1. 自立支援の理念にそったケアマネジメントの実施

- ① 居宅介護支援に関する法令を遵守し、基準に則した運営を行う。
- ② 利用者が個々の能力に応じ、住み慣れた地域で自立した在宅生活を送れるように自立支援と介護予防にむけたケアプランを作成する。
- ③ 保険医療機関、施設サービス等の多用な事業所と連携を図り、総合的かつ効果的サービスが提供されるように支援する。

## 2. 介護支援専門員の資質の向上を図る

- ① 定期的（週1回）に居宅会議を開催し、ケアマネジメントにおける困難事例の検討、業務上の改善点やケースについて検討し情報共有を行う。
- ② 各種研修等に参加し、知識を深めると共に最新の情報収集に努める。
- ③ 事業所内で定期的に研修を行う。

## 3. 支援困難ケースの積極的な対応等地域に置ける居宅支援事業所としてケアマネジメントの質の向上を図る

- ① 圏域内の居宅介護事業所と共催し定期的に研修会を開催する。
- ② 24時間連絡体制を確保し、必要に応じ利用者等の相談に対応する体制を確保する。

## ●板宿あんしんすこやかセンター

社会福祉士1名、看護師1名、主任介護支援専門員1名、  
地域支え合い推進員1名、介護予防プランナー1名

今期のテーマ 『個別ケース支援、地域診断、地域ケア会議を通じて、高齢者の困りごとに視点を当て、住民・専門職と協働して、地域の課題を明確化する。又、資源発見・開発につとめ、地域の高齢者を重層的に支え合う地域づくりを目指す』

今期計画 1、神戸市地域包括支援センター運営評価基準を遵守したセンター運営  
2、職員相互の信頼・協力関係を構築して、専門性の発揮とチームアプローチを両立させる。  
3、地域診断を通じて地域課題の客観化・分析を行い、住民・多職種多機関との協働で問題解決にあたり支援する。

### 1、神戸市地域包括支援センター運営評価基準を遵守したセンター運営

①総合相談業務：センター業務（センター一般、成年後見制度、虐待防止、介護予防普及啓発、認知症、介護リフレッシュ教室等）の広報活動を行い、認知度を上げる。

高齢者、又は家族の多様なニーズに対して、緊急性を配慮した対応を計画的に行う。  
年4回 介護リフレッシュ教室を開催して、家族介護者の負担軽減の場を提供する。

- ②権利擁護業務：緊急性・優先順位をセンター内で共有・協議して、複数の課題を持つ事例への対応について、関係機関と対応を組織的に検討する
- ③介護予防業務：介護予防の取り組みが必要な高齢者を早期把握、必要な支援に繋げる。又、マニュアルを遵守し、介護予防ケアマネジメントを適時適切に実施する。
- ④包括的継続的ケアマネジメント業務：地域の介護支援専門員との連絡会、研修会を定期的に開催する。又、自己研鑽にも努め、介護支援専門員から相談を受けやすい関係づくりを構築する。適宜、社会資源の情報提供を行う。
- ⑤地域支え合い推進活動事業：民生委員、ふれあいのまちづくり協議会等の地域支援者との連携を図り、見守り体制やコミュニティづくりを支援する。
- ⑥緊急時の対応について：あんしんすこやかセンター業務マニュアルを遵守し、安否確認などの業務を区役所あんしんすこやか係や警察・消防と連携し対応する。

## **2、職員相互の信頼・協力関係を構築して、専門性の発揮とチームアプローチを両立させる。**

- ①朝の申し送り情報共有、定例会議（あんすこ会議、4職種会議等）、必要時ミーティングを通じて、ホワイトボードを活用した個別事例、地域課題等業務の可視化を図り、情報を共有する。
- ②職員の業務の負担感や不得手な部分を他の職員が相互に補い合い、多問題事例や多種多様に亘る業務をチーム一丸となって取り組む。
- ③各々が専門職である自覚を持ち、謙虚さ、かつ主体性を持って自己研鑽に努める。
- ④すべての職員が働きやすい職場環境づくりに努める。

## **3、地域診断を通じて地域課題の客観化・分析を行い、住民・多職種多機関との協働で問題解決にあたり支援する。**

- ①地域診断について、複数の情報をもとにアセスメントし住民・専門職に明示する。
- ②認知症地域資源ネットワーク会議、高齢者虐待防止ネットワーク会議に参加する。
- ③地域診断に基づいた年間計画を作り、須磨区あんしんすこやか係、須磨区社会福祉協議会の助言を受け、年2回 地域ケア会議（東須磨地区、板宿地区）を定期開催する。
- ④③開催後、センター内で振り返り、課題のまとめを実施し、住民・専門職へフィードバックする。今後のセンター運営に反映させる。